

アンケート調査結果

1. アンケート内容

生息の確認状況および生息確認開始年，被害の確認状況，被害確認開始年および被害内容について問うアンケートを実施した．また確認場所を記載するメッシュ図を添付した．

2. 送付数と回収数

送付は基本的に近年合併（いわゆる平成大合併）前の旧市町村単位とし，回答対象は担当者および担当者が紹介する地域の状況に詳しい人物として，合計 2 部を送付した．紹介者は各市町村 1 名分を同封したが，要請のあった場合には追加送付した．適切な紹介者不在との回答も多数あった．

送付数と現在までの回収数を表 1 に示す．対象市町村数は兵庫県が 55，和歌山県および滋賀県が 50，奈良県が 47，大阪府および京都府が 42，三重県が 40 の合計 326 市町村であり，アンケートの総送付数は 656 通となった．市町村担当者宛に 326 通を送り，現段階の回収数は 264 通，単純な回収率は 81.0％である．ただし，合併直後の市町村などで回答が旧市町村ごとに返送されたり，逆に旧市町村ごとに送付したが総括された回答が返ってきた場合もあり，正確な回収率とは若干異なっている．

表 1 アンケート送付数と回収数

	送付数		回収数			行政機関
	市町村	紹介者	市町村	紹介者	総数	回収率
大阪府	42	44	37	6	43	88.1
京都府	42	44	34	16	50	81.0
和歌山県	50	50	42	27	69	84.0
兵庫県	55	55	49	20	69	89.1
奈良県	47	47	33	8	41	70.2
滋賀県	50	50	37	14	51	74.0
三重県	40	40	32	8	40	80.0
合計	326	330	264	99	363	81.0

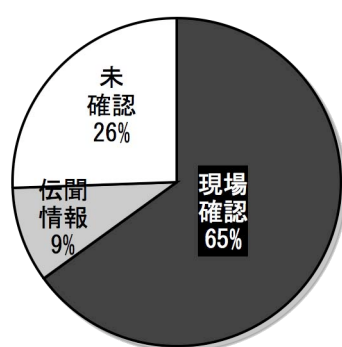
3. 生息と被害の有無

生息に関する回答（問 1）を，個体（生体，死体）および痕跡の現場確認，伝聞情報および未確認に区分し一覧を表 2 に示す．また各府県の回答内訳を図 1 に示す．

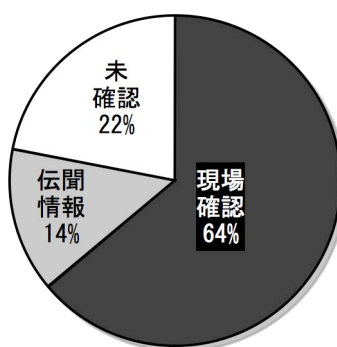
大阪府では回答者のうち 74％がアライグマを確認しており，そのうち 64％は個体，死体あるいは痕跡を確認している．京都府では 78％がアライグマを確認しており，そのうち 62％は個体，死体あるいは痕跡を確認している．和歌山県では 87％がアライグマを確認しており，そのうち 78％は個体，死体あるいは痕跡を確認しており，5 府県で最も確認割合が高かった．兵庫県では 61％がアライグマを確認しており，そのうち 51％は個体，死体あるいは痕跡を確認している．一方奈良県では 70％，滋賀県では 78％，三重県では 67％の人が生息を確認していなかったが，三重県では伝聞情報が現場確認を上回り 18％を占めた．

表2 生息に関する回答の割合

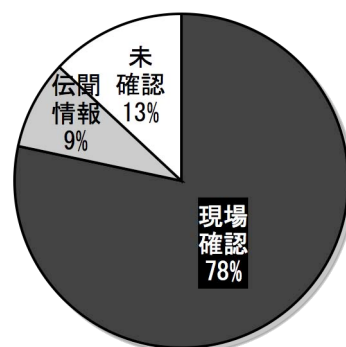
	現場確認	伝聞情報	未確認
大阪府	28	4	11
京都府	32	7	11
和歌山県	54	6	9
兵庫県	35	7	27
奈良県	8	4	29
滋賀県	9	2	40
三重県	6	7	27
7府県合計	172	37	154



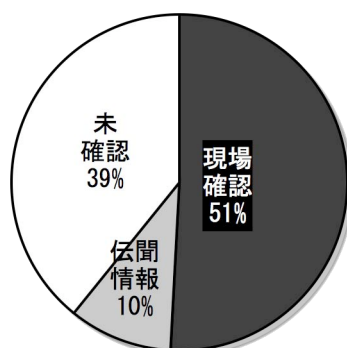
大阪府



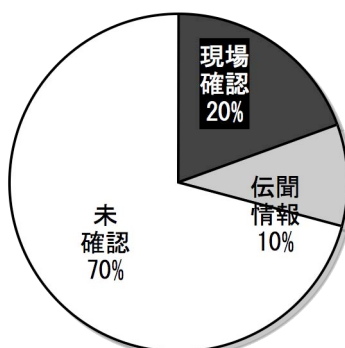
京都府



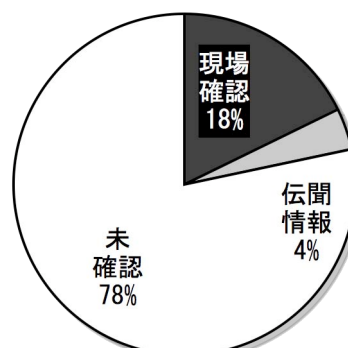
和歌山県



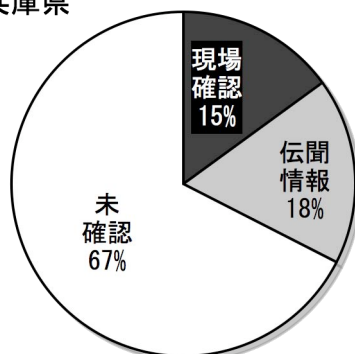
兵庫県



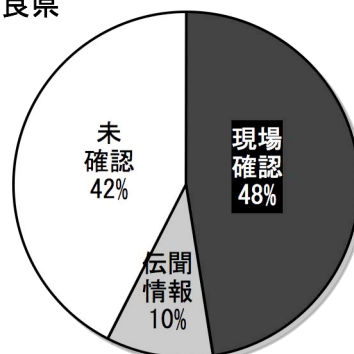
奈良県



滋賀県



三重県



7府県合計

図1 府県別生息に関する回答の内訳

被害に関する回答（問３）を、現場確認、伝聞情報および未確認に区分し、その一覧を表３に示す。また各府県の回答内訳を図２に示す。被害に関しては生息情報よりも若干割合が低下し、大阪府と兵庫県では約５割、京都府では約６割、和歌山県では約７．５割で被害を確認している。奈良県と、滋賀県および三重県ではそれぞれ１２％、８％、２８％と低い割合である。

表３ 被害に関する回答の割合

	現場確認	伝聞情報	被害なし
大阪府	21	3	19
京都府	27	4	19
和歌山県	45	7	17
兵庫県	24	8	37
奈良県	2	3	36
滋賀県	2	2	47
三重県	2	7	31
７府県合計	123	34	206

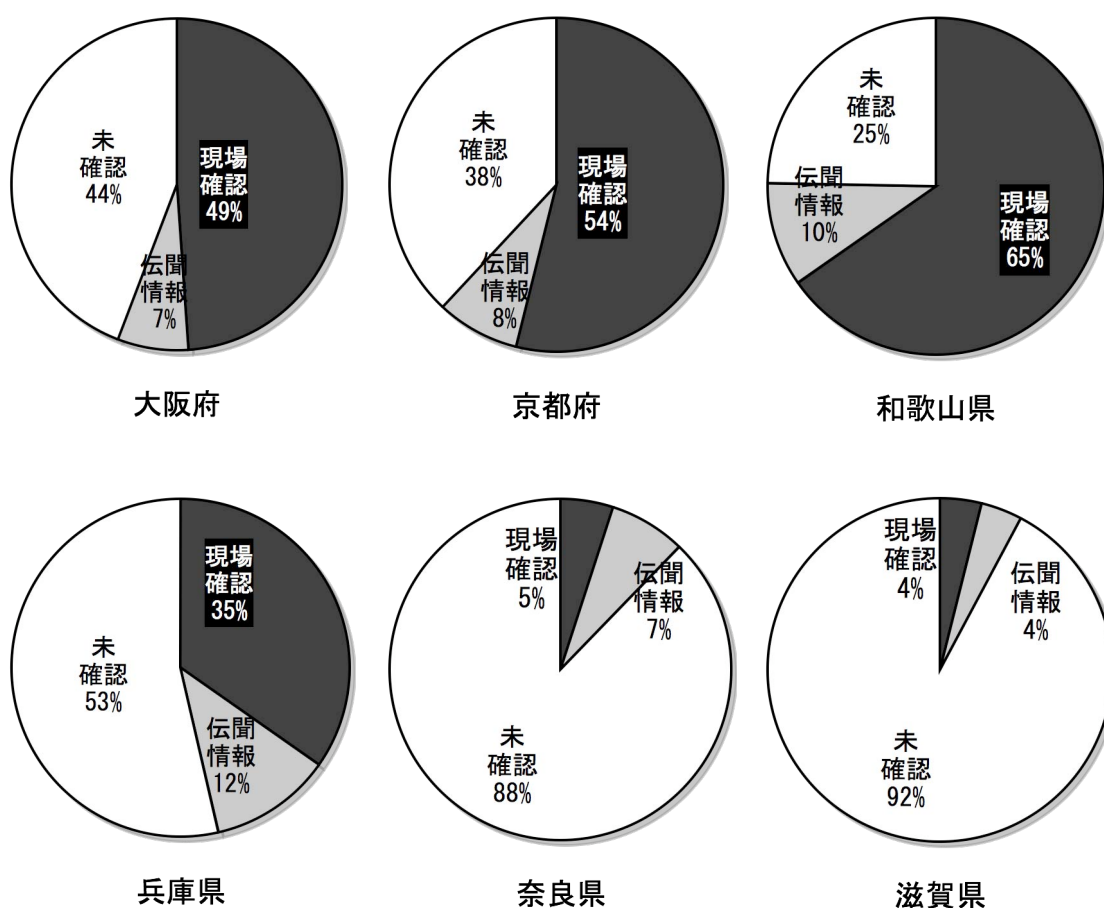


図 2-1 府県別被害に関する回答の内訳

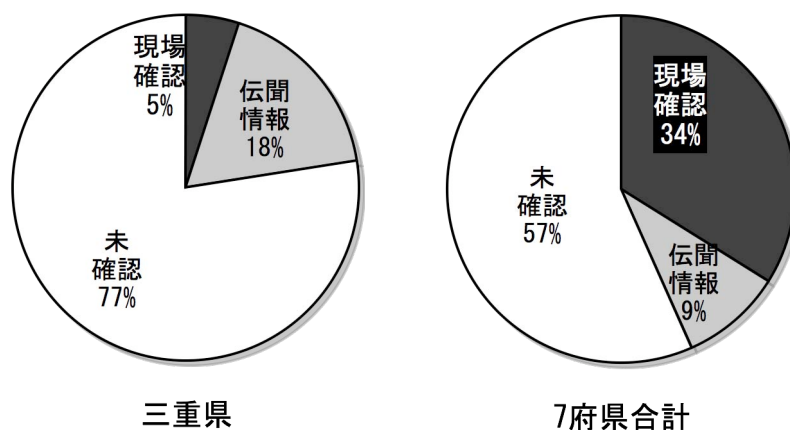


図 2-2 府県別被害に関する回答の内訳

3. 被害内容

各府県別の被害内容（問 4）の内訳を図 3 に示す。被害情報の多かった大阪府、京都府、和歌山県および兵庫県のうち京都府以外は畑の作物への被害の割合が最も高く、京都府では家屋の被害の割合が高かった。次いで大阪府では家禽・飼育動物（飼育動物の餌を含む）、京都府では畑の作物、和歌山県では果樹、兵庫県では家屋の被害が多かった。

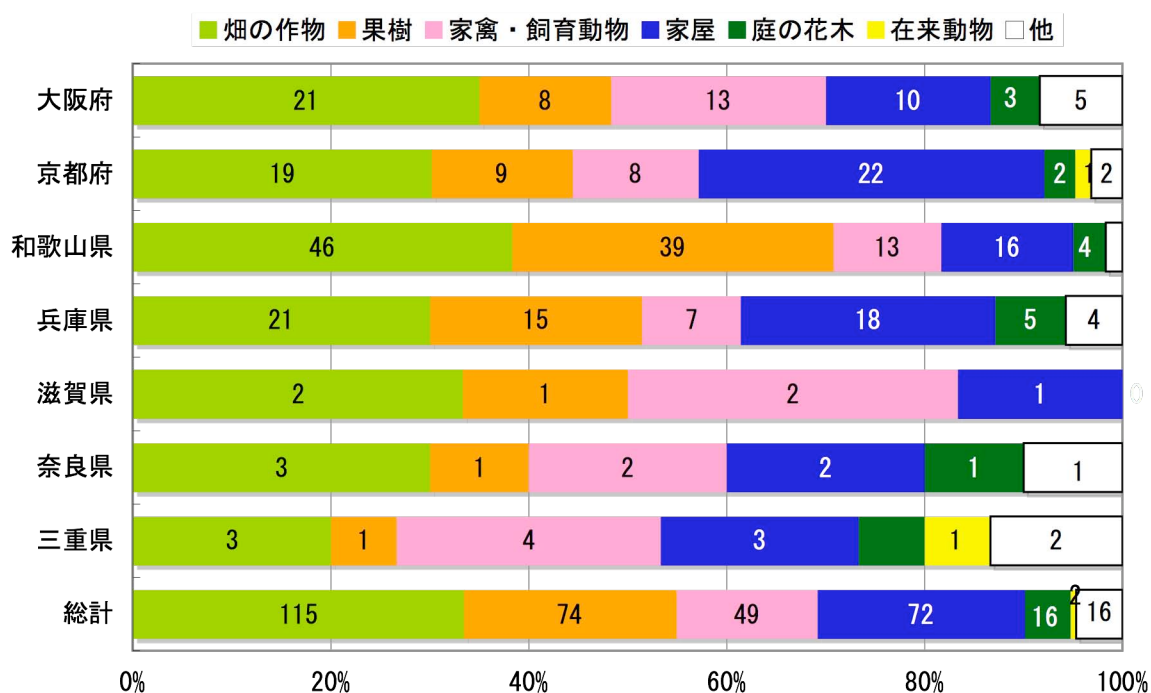


図 3 府県別被害内容割合（図中の数字は回答数）

具体的に示された被害内容の一覧を表 4 に示す。20 件以上の情報があつた項目を灰色で示している。すべての府県でスイカの被害が最も多く寄せられた。京都府ではトウモロコシ、兵庫県ではブドウについて同数の情報があつた。次いで、大阪府ではトウモロコシ、ニワトリが多く、京都府ではカキ、ブドウ、和歌山県ではミカン、カキ、ブドウ、トウモロコシなどが多かった。兵庫県ではトウモロコシ、カキなどが示された。キンギョ、コイ、メダカ、サカナといった魚類の被害も多かった。

表4 アンケート調査で回答のあった被害一覧

	種	大阪府	京都府	和歌山県	兵庫県	奈良県	滋賀県	三重県	総計
野菜	イネ	2		3					5
	サツマイモ	1	1	5	2				9
	ジャガイモ	1		2					3
	イモ類		1	2	1				4
	ウスイエンドウ			2					2
	エダマメ			1					1
	エンドウマメ			1					1
	ダイズ				1				1
	マメ類			5					5
	ウリ			3	4	1			8
	カボチャ	1	1	3	3				8
	キャベツ	1			2				3
	キュウリ	1							1
	シシトウ				1				1
	スイカ	15	6	37	12	2	1		73
	ダイコン		1		1	1			3
	タケノコ			2					2
	トウモロコシ	9	6	10	7	1			33
	トマト	5	2		1				8
	ナス	1		3					4
果樹	ハクサイ	1	1	2	1				5
	イチゴ	2	1	12	4			1	20
	イチジク	2		4	1				7
	サクランボ			2					2
	ソルダム					1			1
	パイナップル			1					1
	ビワ	1	1	2					4
	ブドウ	5	5	18	12				40
	ミカン	2		24					26
	メロン		2	3					5
	モモ	1		5	2				8
	リンゴ				1				1
	カキ	2	5	21	6		1	1	36
	干し柿					1			1
	キウイ		1	1					2
	バナナ			2					2
	柑橘類			2					2
飼育動物	イヌ	1	3	2					6
	ネコ	1	1	2					4
	ウサギ	1		1					2
	カメ		1		1				2
	キングヨ	6	1	6	4			1	18
	コイ	2	3	6	1			1	13
	メダカ			2			1		3
	サカナ	1				1			2
	ニワトリ	7	2	8	4	1			22
	タマゴ					1			1
	飼育動物の餌	3		2			1	3	9
その他	菓子				1				1
	食品	2						1	3
	肥料	1							1
	デンプン				1				1
	残飯・ゴミ箱	1				1		2	4
	ビニールハウス	1							1
	寺社		4	2	1				7
	家屋		1						1
	恐怖感				1				1
	茶園の掘起		1						1
	総計	80	51	209	76	11	4	10	441

4. アライグマ確認地点

図 4 にアライグマが確認されているメッシュを示す。情報精度による区分は行っていない。生息が未確認であるとの回答のみであった市町村と、アンケートが回収されておらず未回答の市町村を区別して示した。さらに未確認であるとの回答のみであった市町村について、回答が「いない」のみであった市町村と「わからない」を含む回答が得られた市町村を区別して示した。和歌山県、大阪府南部、大阪・京都・兵庫の府県境、および京都府中丹地域で生息が広範囲に確認されている。兵庫県の市川流域にもまとまった分布域が示されている。また、情報の少ない県でも生息情報のあるメッシュは点在しており、奈良県と大阪府との府県境、奈良・三重・京都の府県境などに生息情報のあるメッシュが比較的まとまってある。

図 5 にアライグマのメッシュ別生息開始年代を示す。異なる開始年情報が得られたメッシュについては、早期のものを採用した。和歌山県、大阪・京都・兵庫の府県境、および京都府中丹部では平成 10 年以前から分布が確認されているメッシュが比較的まとまってある。また、最近 1・2 年に生息が確認し始められたメッシュも多く認められる。

図 6 にアライグマによる被害確認開始年を示す。和歌山県、大阪・京都・兵庫の府県境、および京都府中丹地域では平成 10 年以前から被害が確認されているメッシュが比較的まとまってある。生息が確認されていても被害が確認されていないメッシュも多数あり、特に市町村内の生息メッシュ数の少ない地域では被害が未確認である場合が多い。

図 7 に、メッシュ別の被害内容を示す。畑の作物や果樹などの農業被害と、家屋、庭の花や木、飼育動物（飼育動物の餌を含む）および人身被害を含む住宅被害に大別した。農業被害のみが発生しているメッシュがやや多いが、大阪・京都・兵庫の府県境や京都府中丹地域では住宅被害や農業と住宅の複合被害も同程度ある。

資料調査およびアンケート調査によって得られたアライグマの分布を示す。三重県の中南部地域とそこに接する奈良県東部、および滋賀県、兵庫県の一部で確認されていない他は広範囲にわたってアライグマが分布している。

アライグマに対する認知度は生息初期段階ではあまり高くなく、本調査の結果が現在の分布域を正確に示しているとは考えにくい。そこで、アライグマの行動域の広さから、分布地域の予測を行った。すなわちアライグマの最大行動域 5000ha（オス成獣の事例；Zaveloff, 2002）を用い、情報のあったメッシュの中心点から面積が 5000ha になるようにメッシュにバッファを作成した、兵庫県の資料は地点情報であったため、その地点から半径 4km の円を作成した。結果を図 9 に示す。これによると大阪府、和歌山県、京都府および兵庫県はその府県土の大部分にアライグマが生息している可能性が示された。また、情報の少ない奈良県および滋賀県でも大阪府、和歌山県および京都府の分布予測地と連続しておりさらにいずれの県も散発的なメッシュの存在もあるため、現在情報の少ない地域および情報のない地域でも注意を喚起する必要があると思われる。